

折檻」が印象に残つた。その意味は、この場の作が優秀なと今更痛感した事と、織太夫が案外優秀でなかつた事とである。總て人物がハッキリ出ない。覺壽も普通以下であり、兵衛なんか全然語れてゐなかつた。

また景事物に就いて文句をいふが、第二回に出た「三人座頭」、この床が實にひどい。近頃の文樂では、殊に景事物の質が著しく下落した。その原因は座方が三味線の撰擇をしない事にある。弾けても弾けなくてもそんな事お構ひなしで、唯人數を並べる。そして並んだ奴等が怠け者の標本で、舞臺へ出てもなんでも一生懸命に勤めて認めて貰はうといふ慾心のない者許りで、殊に不屈千萬な現象は、我々素人でもわかる程の大間違をした時にニヤ／＼と笑ふ事である。不愉快の極致である。

うそくらぶ

漫才のミス・ワカバが自動車事故で頭を打つて、阿呆になつてから急に漫才が上手になつた。姉のミス・ワカナは語る『本當に不思議です。歌舞伎の役者さんも一べん頭をお打ちになるとえゝのですワ。アラ、失禮申し上げます。どう致しませう。私、苦勞が足らるので、言はいてもえゝ事を言ふてしまふ癖がありますので。お叱り下さいませ。つい口がすべつてほんまの事言ふてしまふワ』